

一般質問

12月10日、6名が登壇
市政を問う



議会の様子は「YouTube」で
配信されています。

一般質問

・不登校児童生徒への支援体制について



阿南 澄男

問

文部科学省の調査結果によると、令和6年度に全国で30日以上欠席した児童、いわゆる不登校の小中学生が35万人を超え、過去最高を記録しました。不登校は、子どもが環境に適応できていないSOSのサインとして、学校や地域社会全体で支援していく必要があります。御前崎市内の小中学校における不登校児童生徒数の推移、また、学校や教育委員会はその主な要因をどのように分析しているか

答

本市における不登校児童生徒数の推移は、特にコロナ禍の影響が大きかった令和2年から令和6年までの5年間で1・75倍と増加が続いている状況でございます。不登校の主な要因といたしましては、「不安や無気力」、「友人関係をめぐる問題」、「親子のかわり方」、「生活リズムの乱れ」など、多様な要因が挙げられており、複数の要因が複雑に絡み合っていることが多いと分析しております。

問

特に注目すべき点は、小学校低学年で顕著な増加が見られることです。低学年の不登校には「子供を一人で自宅に置けない」という特有の問題が存在します。共働き家庭では、保護者のサポートが求められます。また、学童保育の民間施設の月謝は平均4万6千円に達しており、支払える家庭に限られています。こうした状況を踏まえ、今後の中期的な対応方針はどのように描いているのか。また、子供本人と保護者への伴走支援を強化する具体策はあるか

答

第一に「児童生徒の学びの場を確保し、安心して学べる環境をさらに整えること」、第二に「心の小さなSOSを見逃さず、関係機関と連携して支援を切れ目なく行うこと」、第三に「児童生徒及び保護者に対する相談体制を一層充実させ、早期発見・早期支援につなげること」、この3点を柱として、児童生徒一人一人に寄り添い、安心して学べる環境づくりに向け、取り組んでまいります。

一般質問

・御前崎市の観光資源であるなぶら市場、 灯台資料館の運営等について ・陸上養殖に対する御前崎市の取り組みについて



小田 芳久

問

なぶら市場は平成9年4月開業以来御前崎市の観光客集客の柱としてコロナ禍の困難な時期を乗り越え、売上向上に向けて努力しております。開業以来28年を経過しているため、近い将来建て替えの時期を迎えますが、御前崎まちづくり株式会社単独での建て替えは困難であります。市はどのような支援ができますか

答

本市では、御前崎まちづくり株式会社と連携し、利用者の動向、観光ニーズの変化、事業手法や財源確保などを双方で共有しながら検討を進めております。

問

灯台資料館の運営・展示室の改修・新しい資料館の建設など御前崎市としての将来の方向性を伺います

答

展示内容や設備については、長期間の活用に伴い見直しが必要との御意見も伺っており、海上保安庁及び御前埼灯台を守る会の皆様と今後の方向性について意見交換を進めているところです。

問

御前崎「見尾火燈明堂」復元から30年、今年は江戸幕府によって建設されてから390年の節目の年であり、御前崎の人たちにとって大切なものです。木造建築で修繕が急務となっておりますが、御前崎市の対応を伺います

答

見尾火燈明堂は、海上交通を有しており、本市としましては、安全性の観点を踏まえ、適切な修繕を検討してまいります。

問

御前崎市として農林水産省の「養殖業成長産業化総合戦略」に則りマーケットイン型の陸上養殖の環境づくりをすべきであると考えているかがどうでしょうか

答

本市には、静岡県温水利用研究センターが立地しており、南駿河湾漁業協同組合の市場機能との連携や流通体制の構築が期待できる環境にあります。さらに、静岡空港にも比較的近く、将来的には海外輸出を視野に入れた物流の可能性を認識しております。引き続き本市に適した養殖の可能性を調査・検討してまいります。